

平成31年度 学校自己評価システムシート (県立川越南高等学校)

目指す学校像	文武両道を実現し、新しい時代に活躍する自立した社会人を育成する学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して確かな学力を養成する。 2 意欲的な学習態度を育み、第一志望を実現させる組織的・継続的な進路指導を行う。 3 部活動・学校行事に主体的に関わることを通して自立した生徒を育成する。 4 積極的に情報発信し、地域社会からの信頼と期待に応える学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 3 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 2 3 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・未来を拓く学びプロジェクト研究開発員の授業改善の取組、全HR教室へのプロジェクトの設置等を受けて県の先端をいくICT教育が展開され始めた。 【課題】 ・学校評価アンケートで、文武両道の文の達成度が5割・6割台であることから文を充実させるため、ICT教育の拡充及び様々な角度から学力向上・授業改善の取組が必要である。	学力向上・授業改善を組織的・継続的に取り組む。	①教科・学年及び進路指導の関連性を意識させることによって予習・授業・復習等学習サイクルを定着させる。 ②プロジェクト、タブレット端末をはじめICTを活用した授業等を通して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進んだか。 ③総合的な探究の時間をカリキュラム・マネジメントに基づいて実施するとともに新学習指導要領に向けた新教育課程の原案を策定する。	①予習・授業・復習等の学習サイクルが定着したか。学校評価アンケートの好評価が7割台となったか。 ②主体的に学習に取り組む態度や深い学び・深い考察が見られるようになったか。 ③カリキュラム・マネジメントに基づいた総探が実施できたか。新教育課程の原案ができたか。	学力向上・授業改善の組織的・継続的取組が概ね実現 ①好評価7割には及ばなかったが、生徒の取組、教員の熱心な学習指導ともにポイントを上げた。 ②プロジェクト活用との進展とともに発表等から深い考察が見られた。 ③総探を、より適切な探究に修正して実施するなどカリキュラム・マネジメントに基づいて実施できた。新教育課程の原案編成が進んだ。	B	次年度の課題 家庭等での学習時間は学年が上がるにつれて増え、3年になると約8割が、年度当初と比較して増えたと回答している。次年度は1年次から学習に向かうための働きかけが必要である。 改善策 新教育課程も見据えながら、1年から落着いて学習に取り組める仕組みを整備していく。
2	【現状】 ・30年度卒業生は1年次からの組織的・継続的な進路指導が奏功し、90%を超える高い現役合格率を達成した。 【課題】 ・全ての生徒が大きな目標と高い志を持ち、持てる力を最大限発揮できるよう1年次から組織的・継続的に進路指導・支援をする。その際自習室の活用、志を高めるキャリア教育やチャレンジする環境を整備する必要がある。	生徒に大きな目標と高い志を持たせ、第一志望を実現する。	①学習習慣を確立させる進路指導・キャリア教育を保護者との連携を重視しながら行う。 ②全員受験模擬試験の定着及び新入試制度に対応した指導体制を整備する。 ③自習室の活用、進学補習、進路ガイダンス、模試実施・フィードバック、卒業生との懇話会等で、進路実現を支援する。保護者には進路講演会、大学視察会を実施する。 ④評価の高い国際理解教育の一層の充実のため、生徒のチャレンジ精神を喚起すると共にグローバル教育を推進する。	①学年・進路通信配布時に解説等を加え学習への動機付けができたか。学校評価アンケートで好評価が7割台となったか。 ②模擬試験が定着したか。また、新しい入試制度に対応した指導体制の整備が進んだか。 ③各学年で積み重ねたキャリア・ガイダンス、進学補習を活用して第一志望合格を達成できたか。 ④積極的にチャレンジする生徒が増加したか。またグローバル教育を通して主体性を育めたか。	生徒に大きな目標と高い志を持たせ、第一志望の実現を概ね達成 ①進路指導・キャリア教育の働きかけが学習への動機付けとなった。3学年で7割台の好評価を得た。 ②③学年を挙げて学習に取り組む体制が進み、模擬試験が定着しつつある。入試制度に左右されない確かな学力養成に向けた指導が進み、進学補習等を活用して第一志望合格が達成されつつある。 ④「科学技術立県を支える次世代人材育成プロジェクト」への参加など多くの生徒がチャレンジしている。	A	次年度の課題 今年度は入試制度改革不調の影響から学習への明確な方向付けが困難であった。入試制度に左右されない確かな学力養成に向けた指導が進んだが、改めて第一志望をあきらめない学力養成が必要である。 改善策 進路指導部が核となって、本当の安全志向とは、しっかり実力を養成することと発信した。次年度はこの点に一層力を入れた進路指導・学習指導を進める。
3	【現状】 ・学校評価アンケートで、文武両道の武(部活動・学校行事等)の達成度が8割・9割台と極めて高い達成を実現している。 【課題】 ・交通安全や自他の安全を配慮した指導を充実させながら学校評価アンケートで評価の高い部活動、学校行事の一層の充実を図る。また手厚い教育相談体制の一層の充実を図る。	質の高い部活動・学校行事を通して心身の健全な生徒・自立した生徒を育成する。	①新たに策定した部活動がドラインに沿った質の高い部活動を通して全人教育を一層充実させると共に目標達成に向けて挑戦する生徒を育成する。 ②学校行事を自分たちの手でよりよいものにしていくことを通して主体的で自立した生徒を育成する。 ③教育相談について、スクールカウンセラーと学年・教育相談委員会が連携して組織的に支援を進める。	①全人教育が進捗したか。学校評価アンケートで部活動・行事に関する内容に好評価を得ることができたか。 ②生徒の自立性が育ったか。学校評価アンケートで学校行事に関する内容に好評価を得ることができたか。 ③スクールカウンセラーを活用し、情報の共有や支援の連携を図れたか。	質の高い部活動・学校行事を通して心身の健全な生徒・自立した生徒の育成が実現 ①部活動は9割が好評価。運動部の他、文化部も目標達成に向けて挑戦し、大会等で成果を上げた。 ②行事は9割超の好評価。行事に主体的に関わり自立性が育った。 ③スクールカウンセラーの有意な活用が進み、情報共有・連携が図れた。	A	次年度の課題 成果を出し続けている運動部と併行して文化部も大きく躍進。文武両道を目指す本校の強みを発揮できた今年度に引き続き、全人教育の充実が必要である。 改善策 部活動・学校行事を通して全人教育を一層充実させ、自立した生徒を育成する。
4	【現状】 ・創立45年を迎える地域に根ざす学校として大東中学校生徒対象の理科教室、吹奏楽部の保育園での演奏をはじめ地域と交流を盛んに行っている。 【課題】 ・HPの掲載事項を常に最新の状態にし、中学校の生徒・保護者、社会地域へ本校の魅力的な取組を情報発信する。	最新の情報を継続して発信すると共に地域と連携を深めることで、開かれた学校づくりを推進する。	①HPの掲載事項を常に最新の状態にする。川南通信に加えて部活動の活動状況を積極的に情報発信していく。 ②理科教室の実施や自治体への「なんこう新聞」の配布を通して地域と連携を深める。 ③部活動を通じた地域との交流や小学校への学習ボランティア等小中学校や地域と連携し、貢献する。	①学校評価アンケートで、HPに関する内容の評価が向上したか。 ②中学校や地域の方から肯定的な評価を得ることができたか。「なんこう新聞」を近隣の方々に愛読してもらえたか。 ③地域との交流や小中学校支援ができたか。	最新情報の継続的発信、地域連携、開かれた学校づくりが実現 ①HPの評価が大きく向上。迅速・積極的な情報発信が評価された。 ②③大東地区21自治体に「なんこう新聞」を配布。理科教室、吹奏楽部による地域での演奏、小学校での学習ボランティア、冬休み科学教室等、地域連携が進んだ。	A	次年度の課題 HPを中心とする情報発信は、閲覧件数の大幅増の大きな成果を上げた。次年度は、よりニーズに応えた情報発信に取り組む。 改善策 学校説明会、学校見学会、部活動見学会等の精選と中学生とその保護者目線に立った情報発信。

学校関係者評価	実施日	令和2年1月31日
学校関係者からの意見・要望・評価等	年度評価の達成度Bは妥当である。 ・学習時間調査の結果から、入学直後から学習に向かうための生徒への働きかけが大切である。1年次から、どう指導していくかが課題である。 ・学習時間確保のため、時間の使い方を工夫する指導をお願いしたい。 ・コミュニケーションをとることが学力向上に必要なと感じる。小グループの活動など、自分の意見を述べやすい環境を設定した全員参加型の授業がよい。	
	年度評価の達成度Aは妥当である。 ・目標達成に向け、本シートのようなPDCAを活用した学習活動を生徒自身が自己管理しながら、取り組めるようになる一層よいと思う。 ・学校全体の進路指導に加えて、三者面談時の担任の先生からのアドバイスが大変参考になり、感謝している。 ・卒業生の体験談は大変有益である。これに加えて、保護者も生徒のキャリア教育に関わる機会があれば良い。 ・学校生活における生徒の表情から概ね良い環境だと思う。もう少し競争心がほしいと感じる。	
	年度評価の達成度Aは妥当である。 ・中学生は高校入学後、部活動や学校行事など、普段の学校生活の充実を望む生徒が多い。この面からも川南の「文武両道」は大いに意味があり、中学生の期待に叶っている。 ・入試時の人気度や生徒が生き生きと学校生活を送る姿から教育活動が生徒のニーズを踏まえた適切かつ充実したものであると感じている。	
	年度評価の達成度Aは妥当である。 ・ホームページがリニューアルされ学校生活(行事、部活動、生徒会)の様子がよく分かり、見やすくなった。中学生向けの説明会が参考になった。 ・学習内容をアウトプットし、確かな学力養成の一環として小中学生への学習支援の機会を設定できれば地域交流、WIN-WINの小中高連携ができる。	